



諏訪・上伊那・飯田地協と共催で「平和学習会」開催

一部・沖縄の歴史を語る、二部・次世代に継承する青年シンポに110名参加！

歌や踊りで沖縄の歴史を学ぶ



《一部》講演の講師は、NHK・プロフェッショナル仕事の流儀でも放送された沖縄カリスマスーパーバスガイドの崎原真弓さん

《二部》次世代へ継承するために

コーディネーターの山根木連合本部総合組織局長と沖縄・長野の青年委員会メンバー



沖縄戦と平和諏訪で学習会  
連合長野と諏訪・上伊那、飯田の地域協議会は28日、平和について考える学習会を諏訪市内で開いた。写真：沖縄県の歴史や文化を伝える活動に取り組みバスガイド崎原真弓さん52歳。沖縄県八重瀬町で講演。「絶対に戦争を起さないため、過去の歴史を学び続けることが大切だ」と呼び掛けた。

崎原さんは、戦争を体験した「おぼあ」の口調をまねて沖縄戦の悲惨さを説明。精神

的に追い詰められた末の集団自決が相次いだとし、「戦争は人の心を破壊し、人間が人間でなくなる」と訴えた。戦後「銃剣とブルドーザー」で米軍に土地を奪われ、米兵

による事件や事故に苦しんだが、歌や踊りで心を奮い立たせてきた。など話した。

学習会は戦後70年の節目に平和運動を盛り上げようとする。100人余が参加。連合長野の中山千弘会長は「安全保障関連法が成立した中、平和を守るために何をすべきかが重要。米軍普天間基地の移設問題に揺れる沖縄の現状にも思いをはせ、平和運動を次世代にもつなげていきたい」としている。

